

資料1

I. 一般社団法人日本分析機器工業会の現況

- ・ 2015年3月31日現在の会員総数192社(分析機器メーカー及び分析機器の販売店、代理店)
- ・ 2013年度年間生産高 約4600億円

II. 分析機器とは

- ・ 物質の組成、性質、構造及び状態などを測定するための機械器具または装置。
- ・ 具体的な例として、ウイルス等、超微細物質を観測する電子顕微鏡、残留農薬、食品添加物等、化学物質を計測するガスクロマトグラフィー質量分析装置、土壌汚染などに関わる微量元素類を計測する原子吸光分析装置などなど、原理、構造とも多岐にわたった製品が数多くある。
- ・ またそれらは企業等に於ける研究開発、品質管理や、国民生活に密接に関係する公害物質等を測る環境計測、食品添加物等の安全性チェック、犯罪捜査における科学鑑識、考古学における年代測定、病院における血液検査のような各種検査などの各分野で広く使われている。
- ・ このように、我々の日常活動の多くの場面において使われている分析機器は、我が国の科学技術を支えるマザーツールであり、科学技術基本計画(第IV期)によって打ち出されているグリーンイノベーション・ライフイノベーションを推進する上で重要な機械・装置である。

III. 日本電子株式会社について

東京都昭島市に本社を置き、高級精密理科学機器(電子光学機器・分析機器)、計測検査機器、半導体関連機器、産業機器、医用機器の製造・販売・開発研究、およびそれに附帯する製品・部品の加工委託、保守・サービス、周辺機器の仕入・販売をおこなう会社。昭和24年(1949年)5月、設立。経営理念は「日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します」であり、生み出した装置は世界の至る所で使用され、科学技術の発展や品質改善に多大な貢献をしている。

日本分析機器工業会 歴代会長

1. 吉田 正直 (株島津製作所) 昭和35年8月～47年1月
2. 上西 亮二 (株島津製作所) 昭和47年1月～57年5月
3. 加勢 忠雄 (日本電子株) 昭和57年5月～62年5月
4. 西八條 實 (株島津製作所) 昭和62年5月～平成7年5月
5. 藤原 菊男 (株島津製作所) 平成7年5月～11年5月
6. 竹内 隆 (日本電子株) 平成11年5月～15年5月
7. 矢嶋 英敏 (株島津製作所) 平成15年5月～19年5月
8. 堀場 厚 (株堀場製作所) 平成19年5月～23年5月
9. 服部 重彦 (株島津製作所) 平成23年5月～27年5月
10. 栗原 権右衛門(日本電子(株)) 平成27年5月～